



山家私藏

| | | |
|----|-----|----|
| 函 | | 號 |
| 番號 | 國語 | 號 |
| 分類 | 文學 | 之部 |
| | 第 2 | 號 |
| | 共 2 | 冊 |

文庫



山家私藏



山家和歌集下

雜

題一ノ下

けくくし 西條さうらさくそ ねね 新秋のつとめ
 かきけりり 昔はたこをのちてき へん 風さす世も
 ねらりさ せらるる ねと 神志を 昔とよのふか
 むさし 昔はたこをのちてき へん 風さす世も
 フとよ 山のおも へん 風の吹く 世も
 けりり 昔はたこをのちてき へん 風さす世も
 むさし 昔はたこをのちてき へん 風さす世も
 まの 昔はたこをのちてき へん 風さす世も
 せらるる ねと 神志を 昔とよのふか



しん津しんしん

世中は世の中も秋の月も水も
七日月も人の心も
世の中は世の中も秋の月も水も
七日月も人の心も
世の中は世の中も秋の月も水も
七日月も人の心も
世の中は世の中も秋の月も水も
七日月も人の心も

菴室一はりそみくふと長と
うみり

世の中は世の中も秋の月も水も
七日月も人の心も
世の中は世の中も秋の月も水も
七日月も人の心も
世の中は世の中も秋の月も水も
七日月も人の心も
世の中は世の中も秋の月も水も
七日月も人の心も

あきしんしんしんしん
世の中は世の中も秋の月も水も
七日月も人の心も

侍従大納言成道のり人なのせぬ

くしーしーわんわん返す

おしーしー守志よふりてそめさき

返す

おしーしーのふんるりせ六世中紙着

中流たふなが家とまよ

いとあつくしすうき

それらその木のぬか

いひ道路とて

おしすう月紙あめ

返す

おしすうおん世月一おん世

為あわとまよるる、堂信養

て山寺よ、竹ゆり

きさりと開ていひつ

いしーしーのふんるりせ六世中紙着

返す

おしすうのふんるりせ六世中紙着

あう人はあう金と仁和寺

て海らて島とあう

海まわら甚故人はう

くしーしーとくしーしー

おしすうのふんるりせ六世中紙着

返す

あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ
いふこときくればさうりやふ

おれぬ成程とてあはれさうりやふ
又西

世体とてぬのつらふ園とてぬのつらふ
あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ

いらんせうりやふさうりやふ
あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ

あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ
又西

あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ
あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ

世中いよんがうくたあうのまはれはのまはれ
あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ

あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ
あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ

あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ
あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ

あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ
あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ

あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ
あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ

あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ
あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ

あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ
あはれいよんがうくたあうのまはれはのまはれ

~~~~~  
のけー~~~~~  
~~~~~

山あつと名のもれけしつらゆるひもろき ^{スミカソ}
新のりもみろ織ひよゆわらわらろる
成み~~~~~
同院 兵衛局

~~~~~のゆ~~~~~家とあつと名れ  
を~~~~~  
山よもゆれわわあゆ一院の仲の扇影のわ  
の梅とひ~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

あわ~~~~~
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

しつちりつれはやく西の風吹くわ
らぬあつたさうわてしつちりつれ
らぬあつたさうわてしつちりつれ
らぬあつたさうわてしつちりつれ
らぬあつたさうわてしつちりつれ
らぬあつたさうわてしつちりつれ

二の世にわたりしと人部とまその山ははるかに
か

天王寺のまのくわくはあつたさうわてしつちりつれ
あつたさうわてしつちりつれ

世中紙のしつちりつれはあつたさうわてしつちりつれ
か

家紙のしつちりつれはあつたさうわてしつちりつれ
あつたさうわてしつちりつれ
あつたさうわてしつちりつれ
あつたさうわてしつちりつれ
あつたさうわてしつちりつれ
あつたさうわてしつちりつれ

くわ
あつたさうわてしつちりつれ
あつたさうわてしつちりつれ

あつたさうわてしつちりつれ
あつたさうわてしつちりつれ

多人の旅人のつらさは分りしは海に舟を乗せし旅を
いしのつらさうは旅人の苦さうは舟を乗せし旅を
舟を乗せし旅人の苦さうは舟を乗せし旅を
舟を乗せし旅人の苦さうは舟を乗せし旅を
舟を乗せし旅人の苦さうは舟を乗せし旅を
舟を乗せし旅人の苦さうは舟を乗せし旅を
舟を乗せし旅人の苦さうは舟を乗せし旅を
舟を乗せし旅人の苦さうは舟を乗せし旅を
舟を乗せし旅人の苦さうは舟を乗せし旅を
舟を乗せし旅人の苦さうは舟を乗せし旅を

花露草にそよぐ人の心

そよぐ人の心は花露草の心
花露草の心はそよぐ人の心

曉無書紙

曉無書紙の心は
心は曉無書紙の心

月前速懷

月よかゝる夜の幸は
七月十八日月あらしを

しつゝしつゝのつゝのつゝは右大臣
まゝしつゝ大納言しつゝしつゝしつゝしつゝ
まのしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝ

しつゝしつゝのしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝのしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ

しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ

しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
右大臣しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ

しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ

しつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝしつゝ

母のくさりて山寺よりりふさりき人
とけりてさひおて人のひさしを
しりて

おちふさひ城人のおれは其おれを
ゆわありき人しりてさりよるさ
しりてり人山内ゆりてゆりて

さりてり人山内ゆりてゆりて
父のさりてさりよるさしりてゆりて
人よ

さりてり人山内ゆりてゆりて
おちふさひ城人のおれは其おれを
ゆわありき人しりてさりよるさ
しりてり人山内ゆりてゆりて

いりて開てしりてひさりて

いりて開てしりてひさりて
又十日の果つては二條院のゆりて
はさりてり人山内ゆりてゆりて

あつてさりてり人山内ゆりて
いりて開てしりてひさりて
ゆりてり人山内ゆりてゆりて

いりて開てしりてひさりて
内侍

我々のさりてり人山内ゆりて
寄 紅葉懐舊とてり人山内ゆりて

よみかた

ふくしつにうらみは色もして袂はらるゝみらくり
あつた懐もふくしつにうらみは色もして袂はらるゝみらくり

十月中の十日比法金毘羅院のお葉も多し
上西門院より一箇すゝも同く待賢門院の
湯もささかされてきふ殿の房もささか
り

お葉もみてさう袂もささかると昔此秋の道もささか
り

園院御所新入新のささかると昔此秋の道もささか
り

みらの園も南よりささかると昔此秋の道もささか
り
申すのささかると昔此秋の道もささか
り
申すのささかると昔此秋の道もささか
り
申すのささかると昔此秋の道もささか
り
申すのささかると昔此秋の道もささか
り

橋もささかると昔此秋の道もささか
り

はりのありてはみえられようから古くは
わんわん人のいし

まみえりて其うらなげわいあり者も海からあま
あまよとられてしまふまはかしくはあま目も
ましとらるるれに同くよ人のいしね
しはあやみく人はあめを同て
くさひて今まはしはありつうよま
つういりてはくはあて

うそみえりてはあまよとられてはあまのいし
ゆらまはつて物成さひく人のいし
あまいりてはあまのいし
くさあて

あまいりてはあまのいし
うらまはつてはあまのいし
あまいりてはあまのいし
あまいりてはあまのいし

あまいりてはあまのいし
同行はあまのいし
あまいりてはあまのいし

あまいりてはあまのいし
あまいりてはあまのいし

あまいりてはあまのいし
あまいりてはあまのいし
あまいりてはあまのいし

ひらきわたるくわんげんはゆりくわんげんがひらきわたる

あし

いんげんはひらきわたるくわんげんはゆりくわんげんがひらきわたる

ゆりくわんげんがひらきわたる

くわんげんがひらきわたる

ひらきわたるくわんげんはゆりくわんげんがひらきわたる

あし

ひらきわたるくわんげんはゆりくわんげんがひらきわたる

ゆりくわんげんがひらきわたる

くわんげんがひらきわたる

ひらきわたるくわんげんはゆりくわんげんがひらきわたる

同日のりんげんはゆりくわんげんがひらきわたる

あし

あし

ひらきわたるくわんげんはゆりくわんげんがひらきわたる

ゆりくわんげんがひらきわたる

くわんげんがひらきわたる

ひらきわたるくわんげんはゆりくわんげんがひらきわたる

あし

あし

ひらきわたるくわんげんはゆりくわんげんがひらきわたる

あし

てしよとあまの草の遠征もすこわりのそとをいふ
あまの草^{コハシ}遠征とすこわりのそとをいふ
那智よりのわく龍も入堂をいふとよ
一二の龍のりあまのそとをいふとよ
佐保の物たりよくそとをいふとよ
あまの草もいふとよ
あまの草もいふとよ
あまの草もいふとよ
あまの草もいふとよ
あまの草もいふとよ

本の後から後から極くすくすく
後から後から極くすくすく
文の... 行へん... 遠征...
同行の... 月... 天王...
西... 河局仁和寺...
あまの草...
あまの草...
あまの草...

台一

四

六

寺に於てを修め成りて月計の御ふらんやをまひん
車廻入道談議とて開てつらりけり
いろむらん法よみぬまきりて名成開成りけり

いづれもあられしは水の心かかき
まことの入道能言寺よ堂はくわし法縁
まじりてつらりけり

観音寺入道生光

寺に於ての我者よつらりけり
いづれもあられしは水の心かかき
まことの入道能言寺よ堂はくわし法縁
まじりてつらりけり

縁なきをくわしつらりけり又乃日つらり

いづれもあられしは水の心かかき
まことの入道能言寺よ堂はくわし法縁
まじりてつらりけり

六波羅太政入道持經者千人ありけり
津國つらりてつらりけり

そのつらりてつらりけり
灯の消るる法とてつらりけり

天玉寺へまじりて巻升の水紙みりてつらり

芥心論乃至身命而不悵惜文也

あしあやめやうきさしりよありまうりあはしあまうる原

疏文よ心自惜心自脱心

甲しひきうてあしりうくまきうつらんあきうんりり

観心

やうつんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

序記

あまうしんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

方便不深着た立欲乃文法

いれもせりうんせの周はあまうあまうあまうあまうあまうあまうあまうあまうあまうあまう

評命記

はしめんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

一忍経供養りんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

かきんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

立百才子記

このりんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

提婆記

これんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

いんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

観持記

あまうこのりんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

てんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

壽量足

わしの山に定住馬山、コト常住不滅、

ワレ山月紙よりぬとみるくく...
あまの人の徳よ一糸絶信養...
あはれ人ようらやめ

あし流子ワレの清山の月け紙念をみそやまのむえ

一心欲見佛の文とん...
ワレの山離る月紙み...
神力不於我滅度後の文紙

わ末の...
普賢足

普賢足

あまの...
あまの...
あまの...

心経

あまの...
無と一芥の心紙...

ワレの山とく...
和光同塵ハ結縁の...

いま...
六道の...
地獄

罪人の志...
餓鬼

あまの...
畜生

くうしん... (vertical text)

脩羅

くうしん... (vertical text)

人

あり... (vertical text)

天

その... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

いと... (vertical text)

の... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

くうしん... (vertical text)

因申 曉心とていへば同長

蜀の^て何^の國^にも^とら^れて^のあ^る元^はん^の時^をも^も

事^がか^らな^らぬ^はむ^しく^のさ^かは^はは^はす^たる^時に^も

こ^のり^も也^終る^しげ^わの^まま^はい^はく^する^も

小神^も也^さら^うな^らぬ^乃躬^にひ^らる

三^つつ^とを^まみ^あつ^さら^しし^蜀の^をも^もて^まえ

思^ひけ^りわ^らは^しの^名を^まつ^わら^うけ^り

ゆ^めの^まや^りの^あり^たん^ずり^のま^はら^れて

あ^りぬ^まや^も神^のあ^らは^りと^すま^いら^ぬあ^らん

と^のの^あら^いと^いふ^も病^のま^はり

それ^に

ふ^らう^とと^いふ^はあ^らは^りの^まは^りと^いふ^はあ^らは^りの^まは^り

分末

阿園^の架^蓋堅^くて^はの^れて^も堅^くい^はれ^り

ゆ^りら^りあ^らは^りと^いふ^はあ^らは^りと^いふ^はあ^らは^り

う^めり^もま^まの^まま^のま^まの^まま^のま^ま

と^いふ^はあ^らは^りと^いふ^はあ^らは^り

り^の也^やの^世系^はは^らせ^るあ^の世^をも^もて

袈裟衣

あ^らは^りと^いふ^はあ^らは^りと^いふ^はあ^らは^り

け^のの^まま^のま^まの^まま^のま^ま

け^のの^まま^のま^まの^まま^のま^ま

の^まま^のま^ま

吹^さす^風も^やま^らぬ^のま^まの^まま^のま^ま

院^の小^侍長^の例^をも^もて^大事^とす^る

酒^をも^もて^月會^をも^もて^月會^をも^もて

ゆらゆらと風を吹かすか
ゆるりと雲を巻くか
水は流るる川を流るる
山は立たる山を立たる
川は流るる川を流るる
山は立たる山を立たる

一本世ハ

わつよ女木葉よけりやあけくさよめあ家の宿は
城のくさくさ人もあやうくはなれぬまをばなれぬ

あはれも人のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
新院舞あつあつあやうくあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

新院へまのせげふ人へりつゝ
しよせくろくし開くありて終るる想度々
しり

家の風つゞらむるをいへるはむらさきの木

うゑ

家の風は神を喚ぶよ木のしんらんをふもと

新院百首のうゑりてついでにむらさ

大将^{とく}はむらさきのうゑりてついでに

むらさき

家の風吹つゝつるるひありてついでに

うゑ

家の風吹つゝつるるひありてついでに

野

風の木をいへるはむらさきの木

嶺^{たかね}渡ふありてついでに

ついでに

曉のありてついでに

ゆめんと入ありてついでに

何れも

入日と山ありてついでに

何れも

木の音ありてついでに

風の吹ぬるありてついでに

入るやまきすかあまうらなまのひたん人城の海もせら

大光寺の亂後ひねりも因院よんふれては

かたきさうりしうらなまのひたん人城の海もせら

く赤深うい海よかひしよかかん好母のひ

出られては長とあひくられはよみか

かうらりあまのひの亂け花の好まてい若さうりか

深長木声しうらなまのひたん人城の海もせら

うけかかかか

海にれつう志の舟のしきめしあかしくつる水花もま

竹風敬馬尊

玉かくさそ花よかかか海もせらうらなまのひたん人城の海もせら

山寺の夕暮しうらなまのひたん人城の海もせら

嵐あらしの舟はまよひの波もせら

夕暮山路

夕暮れやひしうらなまのひたん人城の海もせら

海邊重後宿しうらなまのひたん人城の海もせら

後天王寺よんふれては

行かぬあまのひの波もせら

行かぬあまのひの波もせら

深長木声しうらなまのひたん人城の海もせら

つらつら

夕暮れやひしうらなまのひたん人城の海もせら

夕暮れ

うらなれ 名おと せいのあめつれ 立ゆり ちかたおき
常 ありとも 道さき ありき 音あり 利
くら比す 野人まのり 聞く 中宮さま
あかき ありといつ 教へたり つかさどる 當り
いさよ ありき 返さる

聖みえ ありき 山後 ありき ありき やまあり
く 魚
時忠卿

あそび 山後 乃音 ありき ありき 立ゆれ 年ありき 入て
出ありき ありき 縁 ありき 年 ありき ありき ありき
と 國 ありき ありき ありき 山 ありき 音 ありき
ありき ありき ありき ありき

うらなれ ありき ありき ありき ありき ありき ありき
ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき

ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき
ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき
ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき
ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき
ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき

ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき
ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき
ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき
ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき
ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき ありき

山

山溪もも雲の下木にけこめ路はたほまらあさぬい
深山不念まきこりこり

言ユキくると山々音の響いふのこけりよんたけらん

さうはほくわらりくわらり音あうやうくわら

うげきして出〜〜〜

かみつらまきの日教のふらまよよんたけりよん

静無法師

立ゆりまやひの〜ゆり〜ゆり〜ゆり〜ゆり

ゆり〜ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆり

こひせ〜ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

まきの月あつらゆりゆりゆりゆりゆりゆり

をひらりゆりゆりゆり

月えれはひに標のえた都へて花とつ〜ゆりゆりゆり

園の細ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

い人の女ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

花をえし其ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the opposite page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the opposite page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the opposite page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the opposite page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the opposite page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the opposite page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the opposite page.

し

くみしてさしゆくものさしをいひ出さる地をいひて

いさうくはるさしをいひていさうくはるさしをいひて

いさうくはるさしをいひていさうくはるさしをいひて

いさうくはるさしをいひていさうくはるさしをいひて

いさうくはるさしをいひていさうくはるさしをいひて

いさうくはるさしをいひていさうくはるさしをいひて

いさうくはるさしをいひていさうくはるさしをいひて

いさうくはるさしをいひていさうくはるさしをいひて

いさうくはるさしをいひていさうくはるさしをいひて

いさうくはるさしをいひていさうくはるさしをいひて

いさうくはるさしをいひていさうくはるさしをいひて

いさうくはるさしをいひていさうくはるさしをいひて

紅梅
心よわくまかせに花もなほして新年のしらねの
すみの丸の園のしきりしときと月夜みそとみ
まのさくらにさくらさくらさくらさくらさくら

お
身もみ物わげさるる花もなほして新年のしらねの
いとらのさくらさくらさくらさくらさくらさくら
しらねのさくらさくらさくらさくらさくらさくら
遠く懐しのよきさくらさくらさくらさくらさくら

し
年よきしきりしときと月夜みそとみ
さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

と
年よきしきりしときと月夜みそとみ
さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

し
おのれはさくらさくらさくらさくらさくらさくら
おのれはさくらさくらさくらさくらさくらさくら
おのれはさくらさくらさくらさくらさくらさくら

夢家歌集下下

一 げらよ又ゆりまのぬいしりよとそ
 仁和二年十月十日のよゆりて幣
 すいせくりゆくもまのぬいしりよ
 けり一の社よつりつりまのぬいしり
 一 げらよ又ゆりまのぬいしりよとそ
 仁和二年十月十日のよゆりて幣
 すいせくりゆくもまのぬいしりよ
 けり一の社よつりつりまのぬいしり
 一 げらよ又ゆりまのぬいしりよとそ
 仁和二年十月十日のよゆりて幣
 すいせくりゆくもまのぬいしりよ
 けり一の社よつりつりまのぬいしり

流りすそそと細りくろくちの海を
くろくちをねし

昔も世中世傳水うねり我けりよとひかえん
天王寺くまのりくろくちと世傳とくろくち

くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち
くろくちの川とくろくちとくろくちとくろくちとくろくち
くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち

くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち
四國のくろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち
のくろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち

くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち
くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち
くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち

くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち

くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち
くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち

くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち
くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち

くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち
くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち

くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち
くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち

くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち
くろくちとくろくちとくろくちとくろくちとくろくち

よみかけふ

うらさ山すすみ々々月夜みさりせいとあまのこひの
花のうもや影 月もてこももあふくわの影は
月とめいさるこもこいさつしめろ影映るよはよふ
ととすその影とすその影のこつとされてやうい
かして月こもみさる

とんとそいさ家のあねといはくま月と心影
こいげすくま

いかにして影のいす減りてあえてこいげまの
い乃すくま

影とすあのかよ友あひしてさだかすもや月さ
金つらとすすくま月夜みさるは影の

あつちやうとすくま

影のう月と影もあつちやうとすくま
あつちやうとすくま

影と月影あつちやうとすくま
影と月影あつちやうとすくま

影と月影あつちやうとすくま
影と月影あつちやうとすくま

影と月影あつちやうとすくま
影と月影あつちやうとすくま

影と月影あつちやうとすくま
影と月影あつちやうとすくま

千種蔵

くそけい色のこまのすくもくちんせいのけいんせいの

ありのこまのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

輪

てんはは備のすけとてふとてかたのたのた

はのたのたのたのたのたのたのたのた

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

けいんせいのすくもくちんせいのけいんせいの

第

秋の暮るるに秋の夕べにふりかへるる夕つよよの夕

の夕

大宮の女房が賀

あはれとていへ立出の空は秋の夕に秋の夕に秋の夕に
あはれ湯の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に
も霜ふれは夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に
人の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に

の夕

秋の夕

あはれとていへ立出の空は秋の夕に秋の夕に秋の夕に
あはれ湯の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に
も霜ふれは夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に
人の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に

あはれとていへ立出の空は秋の夕に秋の夕に秋の夕に
あはれ湯の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に
も霜ふれは夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に
人の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に

あはれとていへ立出の空は秋の夕に秋の夕に秋の夕に
あはれ湯の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に
も霜ふれは夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に
人の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に

あはれとていへ立出の空は秋の夕に秋の夕に秋の夕に
あはれ湯の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に
も霜ふれは夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に
人の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に秋の夕に

〜のいふひりては傷はあつたの心のりひ
あつて〜

あつて〜
あつて〜
あつて〜

新院さあつて〜
けり女房の〜

水〜の〜
〜

又女房つ〜
〜

〜
〜

〜
〜

〜
〜

〜
〜

〜
〜

〜
〜

〜
〜

〜
〜

女房六角局

志すいふむらみよすしふ極く名状わすれぬま
 西國へ修明して海よりくる小島に
 西よ八樓のいそれ路さわ々々よこり
 こり々々一年つて又その社跡みくら
 ねよこのふらあはさりさり々々成みて
 高井一松老あさり々々我年へさり々々
 少々いそ海よりそゆる々々竹のゆ乃
 疾よ海にひて用い々々
 竹のよ疾くゆ今とれおこくはひ
 世紙のふれささり々々人のりい海より
 てな世のいそいそいそいそいそいそ
 申してゆり々々竹のいそいそいそ

トトのいそいそ

うゆゆ竹のいそいそいそいそいそいそ
 歌
 疾く竹の房のいそいそいそいそいそいそ
 わるれいそいそいそいそいそいそいそ
 ちる路いそいそいそいそいそいそいそ
 いつのおいそいそいそいそいそいそいそ
 いそいそいそ

山木のいそいそいそいそいそいそいそ
 雲れ絶さうらうらうらうらうらうら
 けいそいそいそ
 熟すいそいそいそいそいそいそいそ
 熟すいそいそいそいそいそいそいそ

松乃木のまじりて月影のけうい
とみく月影のまじりて道徳のけうい
一々

くみくまのまじりて月影のけうい
本法の細涼のまじりて月影のけうい
ひつ又松のまじりて月影のけうい
入目影のまじりて月影のけうい
なれし

くまのまじりて月影のけうい
月影と題して月影のけうい

いひて月影のまじりて月影のけうい
東然入道大東のまじりて月影のけうい

大原のまじりて月影のけうい
のまじりて月影のけうい

くまのまじりて月影のけうい
まじりて月影のけうい
西行と人
くまのまじりて月影のけうい

くまのまじりて月影のけうい
西行と人
西入道西山のまじりて月影のけうい

4

15

ひとひらきしりておとすくわ
 くらぬらふしうてのむねおはる
 麻のぬきりてぬきぬきぬきのぬきりてぬき
 くらぬらふしうてのむねおはる

くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる

くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる

くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる

くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる

くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる
 くらぬらふしうてのむねおはる

いふより傳ふん此あふりて詠是うら物と書くこと
庚申のよりくくもりてあふみけり
古今後撰拾遺是紙本每さくく山吹
よむら歌ととりてよみけり

古今本每さくく

ぬ乃色くく梅球おん此袖よあふ考やと書ん

後撰さくく

まゆ乃あささるんは梅むとありくくく

拾遺山吹よよす

山吹の也笑升よ此さくく

祝

いふより傳ふん此あふりて詠是うら物と書くこと

いふより傳ふん此あふりて詠是うら物と書くこと
あふらくじゆらあな井あふねあふらくく
ひれきてき井よら此さくく
いふより傳ふん此あふりて詠是うら物と書くこと
大海のさひて山よらくく
あふ代のさあよあふら此さくく
あふ代は天津元らあふらあふら
いふより傳ふん此あふりて詠是うら物と書くこと
あふ代はあふいんあふ山此さくく
あふらくくはあふら色さあふら
あふら守ひれは保さくく
竹の也とあふら

びまはまはげそねくう人のこころいひし
こころ

ちよとくふニ葉此松のせむさみみか
又葉乃下いあむらう小松のゆき
子日あむらう日やりのひよひんて
つらふすて

そくこめこえこ此日ちうまひちり
この松のこころいひしこころいひ
し

ちよとくふのれれ城もあむらう
まよつてあむらうあむらうあむらう
のこころいひしこころいひし

越へこころいひしこころいひし
こころいひしこころいひし
是とく

あむらうのあむらうのあむらう
八条院のあむらうのあむらう
あむらうのあむらうのあむらう
あむらうのあむらうのあむらう
あむらうのあむらうのあむらう

あむらうのあむらうのあむらう
あむらうのあむらうのあむらう
あむらうのあむらうのあむらう
あむらうのあむらうのあむらう

あむらうのあむらうのあむらう
あむらうのあむらうのあむらう

水のもは花はあつたて採るうらまは此甲
 山ゆみねのこころとて庭はあまのたふし
 神樂は早月
 神樂は早月

美和元年六月一日院慈野入すいせは
 美和元年六月一日院慈野入すいせは

美和元年六月一日

糸院の清草神とて出給らんときえぬ
 伝より美和元年六月一日院慈野入すいせは
 伝より美和元年六月一日院慈野入すいせは

世中よ大車いそいで新院わぬ海
に彩もせねし海にてはくありて
仁和寺の小院よがく海にありま
まのりしはん人あさやいそいで
月あきてよみかたり

あつたよはるうすむし月をみく御成
あつたあつた海を後うさのよ
よよよよよよよよよよよよよよ
あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

の魚

東燕

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

若人不嗔打 以何修忍辱

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

う魚

女房

あつたあつたあつたあつたあつた

わかれまゝしゆくりらんまゝ 世はくちんていんかまはなれぬ

松山乃あまの海よふくはりてはらんはれ世にばなれぬ

老人迷懐よりふくはる人こもみり

山あはれつゝすすむりていつくのふれ世のうらみ

は京大史後成うこあひせりてて一國をう

けくしすて

まふぬふのくあひせりつゝあひあつとまひあふ

う金一

後成

世はくちんていんかまはなれぬ

戀百十首

らひあまのりひあまのくちんていんかまはなれぬ

あひのむらさき色のつらさきくみりかひ社女をす

つめかゝらぬかの世あわらしてはれあまのくちんていん

かゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬか

かゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬか

かゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬか

かゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬか

かゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬか

かゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬか

かゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬか

かゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬか

かゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬか

かゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬか

かゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬかゝらぬか

紙

五十一

今ハカモ志のふらそほまれぬまけたりんやまの心
のよらうくちあし梅のくれやぬ白ひかひのゆり
はかよあかしのよくとみれはまゑのまはれは
清くちり言伝神をちりれあうあまはうん
いよさんそれ又月ぬのまはらちやんせまの神
まをれれらうらあまにありあうゆぬんれ
今ハカモ志あまのまよる果て人ようんそ
おろくのよまはう梅のむ離うらう
うそぬのまはれはのまのまをれは
ひさうそまはらうん
七たハあまはれは
おろくハ笑神ハ

船房よぬらう神はあす
待くしそまよみあまは梅のまはれは
のまはらうん
あまそれは
今ハカモ志あまのまよる果て人ようん
いよさんそれ又月ぬのまはらちやんせまの神
まをれれらうらあまにありあうゆぬんれ
今ハカモ志あまのまよる果て人ようん
おろくのよまはう梅のむ離うらう
うそぬのまはれはのまのまをれは
ひさうそまはらうん
七たハあまはれは
おろくハ笑神ハ

うん又然みつてさうれを化けりるさんて
言乃しうりくうい

仁のトハ言うられれ色うれわみる白物、みあふ出の
きつみてあふあす候とされんといひしに化けり候
せつやう情のきよし月ごとくあふ人言はあふらう
ゆふ色ハ毒とれんとてさうしは言れまよきそり
れ、まわれれ、く言れんといひさうりさんをさう
申し、又その細なるらめ言ありて人候よし、い
「...」れまよむの苗葉にけす、まうらういけり
んさまういけり、せり、まあ
ありらりくくれい、

ふん、い、減、く、め、れ、ま、ま、う、ら、ら、く、い、何、は、ま、ま、ま、ま、ま、

ちぢぢのびまんをひひらり
ーゆりてまのそり、の松の、
くらみひや

とせおれ、野山、ま、ま、ま、本、此、から、ま、ま、ま、此、葉、を、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

又のうりー

ゆん、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
率、塔、婆、壇

大師の所の形はかゝる海に四の門がく
 少くはれてあなはななななななな
 物こそ念よこしいありんか
 おまつの形くあなはなな
 備前國——小島——嶋よはらち
 かくよあなはなななななななな
 口れくちあなはなななななな
 てしそくはすあなはななななな
 ど——のさなななななななな
 しまあまんのを種ありんか
 しくしそくはななななななな
 かりれくさななななななな

片に種ありんかは物ななななな
 ひ——か——ななななななな
 らん——なななななななな
 う——の——ななななななな
 あなはな物なひらななななな
 ーのひらななななななな
 り——ななななななななな
 する——なななななななな
 ちりてななななななななな
 又——の志ななななななな
 する——なななななななな

マナ

カ

こはえハ小キ
ハヨク
えふふ一本山射

こハエハ小キ
ハヨク
えふふ一本山射

ひははぬほとん
ユキリカヌウナニ

ひははぬほとん
ユキリカヌウナニ

廿一首二首

神カミをよむ御形さる守教をみて月日はさるなりすの
かりすはこれ老ねよとてあへりてあはれなる文様

釋教十首

さかたうさうははれりし 三首

はらひしとふとねとふりいふとふりしとふりしと

ひさしとふりしとふりしとふりしとふりしとふりしと

まをばよの人の心城がくふまをばはりしとふりしと

廿一首三首

さうりひらひらとふりしとふりしとふりしとふりしと

山係つちとふりしとふりしとふりしとふりしと

所よりしとふりしとふりしとふりしとふりしと

千の經三首

おまをばはりしとふりしとふりしとふりしと

らひしとふりしとふりしとふりしとふりしと

さうりひらひらとふりしとふりしとふりしと

又一首ころん球

さうりひらひらとふりしとふりしとふりしと

らひしとふりしとふりしとふりしとふりしと

さうりひらひらとふりしとふりしとふりしと

雜十首

さうりひらひらとふりしとふりしとふりしと

らひしとふりしとふりしとふりしとふりしと

ひらひらとふりしと
ひかみたる
わらわめつる

おまをば

龍あつうりやあはれをくらんねをいせむハバにあらうり
 けうをわに置へるくらひをくらねとあやとをいせむは
 さぬくの長をくらうりくらねくらふくらんて秋の暮る
 山に川のすいぬらむくらうりくらふくらんて秋の暮る
 山に川のすいぬらむくらうりくらふくらんて秋の暮る
 月とくらぬらむくらうりくらふくらんて秋の暮る
 波くらぬらむくらうりくらふくらんて秋の暮る
 けうあはれをくらうりくらふくらんて秋の暮る

物語
 巻一

京都書肆

二條通衣棚

風月莊左衛門

ウラモノ

